

2021.12
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく 富 薬

12号

第43巻
No.389



ヒヨドリジョウゴ *Solanum lyratum* Thunb.

(ナス科 *Solanaceae*)

生 薬 ハクエイ（白英） 夏から秋にかけて、果実が付いている地上部を刈り取り陽乾する。

成 分 ステロイド系アルカロイド：solanine、ヨーロッパに自生する同属の *S.dulcamara* には tomatidenol, solanidine, soladulcidine, $\alpha \cdot \beta$ -solamarine、ステロイドサポニン：tigogenin, yamogenin 等。

効 能 解熱、利尿、解毒薬として用いたこともあるが毒性が強く今では用いられていない。外用薬として带状疱疹に全草を酢漬けにしたものを患部に貼る。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



日本全土、朝鮮半島、中国中南部、インドシナに分布し、日当たりのよい林縁などに普通に見られるつる性の多年草で、茎は細く軟弱で、よく分枝し、葉柄が他物に巻きつきながら高さ2-3mに成長し、柔らかな腺毛に覆われます。葉は先が尖った卵形～長卵形で、下部の葉は3-5深裂することが多く、全縁で、互生します。この葉の形が豎琴に似ていることから種小名*lyratum*（豎琴状の）の名が付けられました。8-10月頃、葉と対生して集散花序を作り、白色の花を咲かせます。花冠は先が5深裂して裂片は反り返り、各裂片の基部に緑色の斑点が2つつづあり、黒紫色の雄しべが雌しべの回りを筒状に取り囲むように並びます。果実は球形の液果で、光沢がある紅色に熟します。小鳥が食べる大きさで、おいしそうに見えることからヒヨドリが好んで食べたとして「鴨上戸」の名が付けられたと言われていますが、毒性があることから実際には食べなかったともいわれています。『大和本草諸品図』（1715）に「ヒヨドリジャウゴ、雪下紅と云う」とあり、果実が雪の下で赤く残っている様子から名づけられ、やはり食用にはしなかったのだと思われます。

国内で普通に見られる植物であることから古くから本草書に収載され、『本草和名』（918）に「白莫、和名保呂之、一名都久美乃以比祢」、『倭名類聚抄』（931-937）には「白英、和名保魯之、一云豆久美乃伊比禰」とあり漢名「白莫」、「白英」に対し和名「ホロシ」、「ツクミノイヒネ」の名で呼ばれていたようです。ヒヨドリジョウゴの名は『大和本草』（1709）に「和名ホロシ、今俗にヒヨドリジャウゴと云う」とあり、「葉は牽牛花（アサガオ）に似て冬月其の実紅也。園にうえて哀願すべし。宿根より春月又生す。蔓も冬枯れずして来春葉を生ず」と説明されています。しかし『本草綱目啓蒙』（1803）には「白英、ホロシと訓ずるは非なり。ホロシは蜀羊泉なり。此の草は即ち蜀羊泉の刻欽なきものなり。故にマルバノホロシと云う。山の幽谷又は江辺にもあり。春舊根より苗を生じ、甚茂延す。藤葉共に毛なし。葉は円長にして尖り、互生す。夏花を開き、穂をなすこと蜀羊泉とに同じくして辺は淡紫色、内は深紫色にして黄心あり。其の実亦蜀羊泉に似たり。秋に至り、熟して深紅色、その形円なる者あり。微長なる者あり。微長なる者は蕃椒（*Capsicum annuum*）の形に似たり。故にナンバンの名あり」と、関東以西から九州に自生し、茎が長いつる性で、葉は全縁で長楕円形、共に毛はなく、花は淡紫色、深紅、球形の果実を結ぶマルバノホロシ（*S. maximowiczii*）をヒヨドリジョウゴに充てています。また果実が微長なる者とあるものは果実が紅熟し、楕円形になるオオマルバホロシ（*S. megacarpum*）であろうと推測します。他に「ホロシ」の名の同属のつる性植物に葉の質は薄く、長楕円状披針形で先が尖り、基部が円く、花は淡紫色、果実が球形のヤマホロシ（*S. japonense*）があります。後の『草木図説』（1852）ではヒヨドリジョウゴの項に学名 *Solanum lyratum* が記され、図も間違いなくヒヨドリジョウゴですが「蜀羊泉」の漢名を与えています。また別にマルバノヒヨドリジョウゴの項には「白英」の漢名を充て、マルバノホロシと思われる植物を解説しています。この頃は白英、蜀羊泉、マルバノホロシ、ヒヨドリジョウゴの間で混同があったようです。また『草木図説』にはヨーロッパに分布し、皮膚病や喘息、気管支カタルに使う「ソラヌム・デュルカマラ（*S. dulcamara*）」についても記しています。長さ4mほどになるつる性植物で、葉はやじり形、基部は分裂します。夏に紫色で星形の花を咲かせます。果実は卵形の液果で、熟すと鮮やかな赤色になります。やはり有毒です。（村上守一 記）